

特別公演

「福島の民俗芸能」

懸田 弘 訓 (福島県文化財保護審議会副会長)

(1) 福島の民俗芸能—その本質と特色

改めましてご紹介いただきました懸田でございます。鈴木裕美子先生から身に余るご紹介をいただいたんですが、この四月で県内の芸能を見始めてからちょうど五十年になりました。四十年ぐらい前からビデオで撮り始めたのですが、当時のもので見られないものもあるんです。そんな中で特に優れたものをいくつか選んで、福島県の代表と言えるものをご紹介したいと思っております。ただ、福島県はですね、民俗芸能の数が大変多いんです。宮城・岩手県と比べますと、2倍から3倍だそうです。何をやるかということ考えると非常に頭が痛いんですね。

雪国に生きる苦難

私たちの福島県というところは太平洋に面しているものですから、冷害でやませという風ですね、会津地方から吹いてくる冷たい風で、たびたび凶作になったんですね。歴史をひも解いてみますと、10年に1回ぐらい凶作になっています。江戸時代には、20年に一回ぐらいは餓死者が出ています。一番大変だったのは、今から230年前の天明の飢饉ですね。相馬藩、正式には相馬中村藩というのですが、今は相馬市ですね。それから、もうちょっと南の今でいう南相馬それから浪江・双葉の辺ですね。福島県の海岸沿いの北半分です。その辺はどういう状況だったかというんですね。それでこの時のですね、損亡、いわゆる亡くなった方8500人ですね。そういうことで、損亡高、米の取れない量が7万とも8万とも言われております。相馬は6万石と言われてましたからね。6万石で7万8万とれないってのは藩にはね、隠した田があるんです。だから多いんですね。最終的には5年6年7年まで5年間凶作でした。そのためにですね、相馬藩の人口が3分の1になりました。このあとですね、間引きがはやったんですよ。生まれた子供をすぐ殺す、決してね殺すとは言いません。間引きとも言いません、お返しした、あるいは風邪を引いたっていうんですね。実際この間引くのはね、母親が自らやることはほとんどありません。私これ聞きました。だいたい産婆さんに頼んだそうです。福島県にはですね、こういう言葉が30年位まで残ってありました。「男の子

なら取り上げろ、女の子ならおしつぶせ」、間引きの歌です。

和紙を顔に張り付けられることが多かったんですね、窒息するんです。ただ産声を上げたらやりません、産声を上げる前までです。何と飢饉のあとは3分の2が間引きされてます。例年だと900人位出生届があるはずなのに300人きりないんです。だから600人は間引かれたんです。間引きのことをずいぶん詳しく聞いたんですが、ある産婆さん絶対自分がやったとは言いません。もうとっくに亡くなって、50年近く前ですけどね。自分ではやったとは間違っても言わなかったのですが、きわめてリアルなんです。やった方でないと知らないようなことを次々に喋ってくれるんですね。この人は間違いなくやったなと思いました。正直言って。そういう状況でした。いかにね、生きるということが大変だったかということです。では、代表的な民俗芸能をスライドで見に行くことにしましょう。それでは電気を消してください。

① 生霊の再生—巫女神楽と太々神楽

福島県は、浜通り、中通り、会津と3つの地域に分かれていますね。福島県は一つの県でないんです。2つないし3つ、4つに分かれていたんですね。歴史的な背景も違います。そういうことで、多彩な芸能がですね、育ったわけです。まず巫女舞から見ていただきます。

「磐梯神社の巫女舞」年代がわかっているてんでは、一番古い巫女舞です。これは、小学生の低学年から高学年までですから正真正銘の乙女です。櫛をもってまわるのと、弓を持つのと、太刀を持つのと3種類あります。巫女舞に特有の左にまわって、右にまわったこの、まわり返す形がきちっと残ってるんですね。

「豊景神社の太々神楽」次に神楽ですね。神楽というのは、舞う場所を清めて、神を呼び招くそれを目的として行われたんですね。福島県では「太々神楽」と呼んでるんですが、笛太鼓のお囃子ですね、これが2種類あります。まず採物舞、採物をもってお面をつけないで舞います、そして清めて神を呼ぶ目的だと思うんですけどね。左に剣と鈴をもって、ぐるぐるまわってますね。振ることによって神が寄り付くんですね。ここで、ぐるんとまわりますが、まわってさらに大きく回って、次

の場所に行く。四つ角で、後ろを回りますから。で、こういう形で、まわるというのが残っていますね。次に天鈿女尊の舞を見ていただきます。古事記などの「岩戸開き」の神話を、お囃子に合わせて再現したものです。

② 御霊除け(送り)一獅子神楽と風流(念仏踊)

「柳津の太神楽」獅子神楽といいまして、獅子頭を持って家々を巡って舞ったりします。昔はかつてでしたが、今はリヤカーに乗ってますけどね。そして一軒一軒回って、いかつい顔をしていますからこの獅子を拝めば悪魔祓いをしたということで、みなさん非常に喜んだんですね。今でも若松ではですね、春先に頭をかんでもらえますね。そうするとこのお宅では、お祝いを贈るんです。払う金額がいくらかによって、芸の長さが変わります。

「冬木沢の空也念仏踊」これは念仏踊りです。風流(ふりゅう)ですが、共通してまして悪霊退散の意味がありますね。あるいは、邪念があると極楽に逝けない。これは極めて素朴な古い形態の念仏踊り。今はなくなってしまったんだけど、大正末期までは東京とか奈良にもあった。これ不思議なことに京都の念仏踊とほとんど変わらないんですね。念仏踊と言ってますけども、踊りの要素はこれですよ。ビョコビョコビョコと片足ずつ向かい合った2人が前の仏壇・祭壇のところに行って頭を下げて、また後ろ向きになって帰ってきます。一回見たら私もできそうなんですけど、難しいんですね。これより前の一週間ぐらい練習してる。8人おりますから、2人ずつ交代に。ですからこれは、念仏踊というよりは踊念仏と言った方があう芸能かもしれません。最後にはですね、円陣を作ります。これも芸能の一つの型ですね。言っていることが、「モウダ、ナモウダ」、南無阿弥陀仏という言葉で最小限に短くした言葉ですね。悪霊を払う念仏踊り、福島県では実は非常に高いですね。「南須釜の歌念仏踊」これは幼稚園児から小学生の女の子が舞います。原則としてですね、8月に行われますが、8月は去年1年間の間に亡くなった新盆(にいぼん)あるいは新盆(あらぼん)とも言いますが、赤い履物でまさに悪霊払いですね。そして白い着物をきています。7つの種目がございます。非常にかわいらしいですね。一見してみますと、念仏踊とは思えないでしょう。でも、各節ごとにちゃんと南無阿弥陀仏と入ります。これだけじゃないんですよ。座ってこれ綾竹というんですけども、小豆が入って振ると音のする竹の筒を2本持って、持ち替える時にちょっとした技を行います。一番肝心なところはね、この次を見てください。十字になってますよね。この十字っていうのは、悪霊払いの典型的な形ですよ。これを

グルグル回します。芸能化してね。基本的な形で、悪霊払いということがはっきりわかります。3つぐらいの子どもやるんですよ。こういう立膝で、回して持ち変えるんですよ。

③ 五穀豊穡のための祈願一田遊び・田植踊・田植神事

「金沢の羽山ごもり」これは福島大学からですね、すぐ裏なんです。福島市松川町金沢というところにですね、羽山ごもりです。国の文化財なんです。これ。まず始まる前に丸裸でですね、井戸の水をかぶって身を清めます。今じゃ一週間、三日間、朝晩です。私も10年ぐらい続けて参加しましたけども、冷たいなんてもんじゃあないですよ。体真っ赤になりますよ。これね、水かぶっているうちはいいんです。そのあと風が吹いてくるとね、また千枚通しで刺されたように背中が痛い。それで、次の日は集落の小さな祠を全部回るんです。その次、馬を奉納するというので、3匹、5匹、7匹と書いてですね、それでそれを置いてくるんです。それだけではありません。こういうのも描いているんです。男性のだけじゃありません、女性のも描きます。いわゆるこれがですね、子孫繁栄というよりは豊作祈願なんですね。なんとかして豊作であってほしいと。こういうことで、真面目に描いてですね、置いてくるんです。それで食事はですね、ご飯が柔らかいんですけども、こんなに山のように盛るんです。普通のご飯5杯分ぐらいありますね。これをね、最低2杯は食べなきゃなんない。絶対に残せません。きれいに舐めてですね、洗ったりしなきゃならないんですね。それから、餅をつくときの臼洗い、水を入れて洗うんですよ。その水も全部飲まされるんです。絶対捨てません。

続いて、田遊びです。「よいさあ、よいさあ」と掛け声かけるもんですから「よいさあ」と言っているんです。まず、雷です。太鼓で雷が鳴りまして、今度は柄杓で水をかけています。これは、雨が降ってきた。それから五月雨ですね。そのあと「代かけ」と言ってね、1人の人を馬に見立てて、2人1組を作ってですね、これを押し合いをするんですよ。それで、この威勢がよければよいほどですね、これは豊作になる気がするんですよ。汗が出るくらい本気になって押し合いをします。これですね。ふんどし一本ですから寒いように思えますけど、これやるとみんな火照るんです。水を被った後ですからね、寒さ感じないんです。そしてポカポカしてますね。そしてそのあとですね、「苗打ち」。田植えの時に苗代の苗を丸めてね、田んぼに投げ入れますね。そのまねです。特に若いね、初参加の男たちが今投げられますから見てください。思いっきりトーンで投げられたでしょ。

これね、ものすごく痛いですよ。これが「苗打ち」ですね。

それで今度は田植えの歌を歌います。田植えは後ろに下がりますから、後ろに下がりがながら田植えの歌を歌うことで田植えをやったということになりますね。この田植え歌ってのはね、実はね、福島県から集めただけで500くらいあるんですが、ここのが飛びぬけて古い。もしかするとね、江戸時代からそれ以前まで遡る可能性の歌ですね。民謡の8割9割は「7・7・5」でしょう。ところがこの歌はそうではないんですよ。だからね、中世までいかないにしてもですね、かなり中世に近いところまで行く歌です。最も古い歌の一つです。

この後ですね、豊作祈願で大変なものを持ってきます。これ、ほぼ一日がかりで作るんです。ご年配の人たち、これを「ばっば」と呼んでいるんですがね、「ほっか」とか「わかほっか」とか「ばっば」といってですね、やたらに名前が付いているやつです。見てわかると思いますが。片方は白菜をかたどって、赤い南蛮を付けて枯れた草を回りに巻いて女性のをかたどっています。もう一つの方は、大根をですね、けずって男の見立てていますよ。これをこう持って、豊作祈願となります。毎年、新しく作ってやります。

そのあとですね、「くぼみ」検査。お椀のことを「くぼみ」ともいうんですけど、お椀一つ一つに付いていないか丹念に蠟燭を持って調べます。舐めてきれいにしなきゃならないんです。余すことできませんのでね。汚い話で恐縮です。最初は僕、トイレに行って口に指を差し込んで戻したことがあります。残せませんから。

最後の晩ですけど、48回井戸から神社まで丸裸で往復します。これ夜中ですよ。夜中の過ぎですよ。48回で言ったら大変ですから後から大人たちが助けてくれます。水を被っては神社まで走って戻ってくる。もう暗いからほんとは真っ赤になってるところなんですけどね。今度は、真夜中の二時ごろ行列を作ってね、すぐ近くの「羽山」という小高い山ですよ。そこに行って、託宣を聞きに行きます。まず、山へ行くと籠った家から持ってきた木でたき火をたきます。これは明かりという意味より、神様によりつための松明なんです。そしてこのあとは、ちいさな石造りの祠の前で「のりわら」と言って、「神おろし」と「神つき」になる人がですね、それで五穀米麦粟きび豆の来年の作柄を問います。これに神が付きました。ここでは個人的な悩みを聞きます。たとえばこれは、12月末の話ですから自分の息子が大学を受験しようとして勉強しているのですが、いかがでしょうかと聞いているんですね。神様は非常に利口です。もう少しのがんばりなんで、入ればがんばった、落ちればがんばらなかつた、ということになります

ね。一番ショックを受けたのはね、自分の長男の誰々と何処どこんちの長女の誰々が結婚しようとしているんですが、いかがでしょうか。10何回行った、その2回目にやめた方がいいって言ったんです。それでね、あとで聞いたら、完全にやめたそうです。ここは絶対服従なんですよ。

「広瀬熊野神社」これもね、豊作祈願の行事なんです。ものすごい素朴なものがあります。阿武隈山地には広瀬川という川が流れています。そして熊野神社に拝殿があります。そこでですね、前の日にね、いわゆる道具を作ります。「ヌルデ」という木を切ってきてですね、割って、ここにね、前に搗いた餅をさして、そして、これ小さい鍬です。「小ぐわ」と言います。それをね、200本から300本ぐらい作りますね。それから大きな鍬も作ります。「大ぐわ」というんですけどね。これを作る。これの上は、餅です。「馬ぐわ」です。これも餅と木です。で、7時ごろですね。昔は1月6日みな道具を持って神社に参ります。そして、最初の行事がですね、「寄せ刈り」と言って、田の農路、草を刈る仕事。揺すりますね。揺すった上にですね、足踏みします。神を呼び起こして靈魂を強める。鎮魂だろうと私は見えていますけどね。まさにおしくらまんじゅうです。子どもみたいに大人もばかみたいと思っけていますけどもね。まさにおしくらまんじゅうです。そして「せき堀払い」、田に水を引いていますよね。その堀がね、いろんなゴミが溜まっていますから、それを取り去ることが「せき堀払い」というんです。その次にですね、「田耕い」です。で、先ほど作った餅の小さな鍬、それを掲げあげます。これで田に苗をしたことになります。歌詞はこういう歌詞です。「春田を打とうどて 千ぐの鍬そろえだ」、昼間に田植えができるということですね、ここで歌うわけですね。そして、そうであることを祈るわけですね。おやつが出ます。お神酒と水と粥です。これがおもしろいんですけどね、「はねくわ」と言うてうねっているから高低がありますよね、高い方の土を低いほうにつけることを「はねくわ」といってまして、それをまねて雪をこねてあんこにつけます。これ1月6日ですよ。真夏ではありませんからね。いい湯だなんて感じるけど、とんでもない。

まわしを取り換えて、駆け抜けますとね、ちょうどいい具合に上り口に滝があるんですよ。うめき声が聞こえますね。で、これはいたずらじゃなくて祓い清めるという意味があります。これは、「代かき」です。艶がいいとかほめるんですよ。褒めることによって豊作になるということですね。そのあと、神職を胴上げします。胴上げすること、ぐらぐらするんですよ。あとで分かりますけど、神憑きになるんです。神が憑り付く

んです。苗代の仕上げです。「苗代しめ」と言いましてね、そしてそのあと、これが一番重要なんですけど、「種まき」です。「大拍子」の太鼓の上にはですね、唱える言葉をみんなで唱えながら大事に米を蒔きます。このときは、本殿の中、扉を閉めてお灯明も消して真っ暗のなかです。これ後でやってもらいました。本番は撮れませんので。そしてできあがるとですね、外から松明を持って来て、まき具合を見るんですね。3回は見るんですね。早生・中・晩生と、どれが一番豊作であるかをね、これで判定するわけです。そして、「稲刈り」になって、そして、最後は託宣を発表します。「梁取の早乙女踊」それから福島県にはですね、東北にしかない芸能、「田植踊」というのがあります。これはね、今から320年くらい前に会津の記録にですね、書いてあるんですね。若い男が女装して早乙女に扮して、なんと「めすかた」にこしらえて、「めす」は雄雌の雌です。現在では、もうアイシャドウを付けて、白粉をつけて口紅をつけてますからね。そしてこういう姿ですね、早乙女風にして一軒一軒回ったんです。この形を300年、守っていますね。踊りは200年くらい前に始まったと、私はみているんですけども、極めて単純です。扇子を何回回すか見ていてください。八の字に回します。1, 2, 3, 4, 5, 6, 6回回して両手を広げる。歌っている間、これを繰り返すんです。これでは、どうしても面白くないものですから、福島周辺でみるとね、こういう踊りになるんです。先ほど早乙女きりいかなかったんですが、こういう奴という男役も入るんです。後ろ軍配とか花輪をつけていますが、花の環はですね女性の象徴です。それで、この右のですね、「鍬頭」あるいは「久六」ともいうんですが、この人が次は何をやってくるというんですね。これは「種まき」です。種まきの仕草です。田植えの仕草になります。素朴な仕草は残っているんですね。「伊佐須美神社のお田植祭り」今度は阿武隈山中、そこに道化踊りというのがあります。さっきの「鍬頭」、道外ですね、これが2人になりましてね。前にいるのは早乙女、黒紋付の喪服を着ています。一番良い着物って、喪服なんですよ。さらにですね、海岸沿いにいきますと、留袖・訪問着を着ています。先ほどの阿武隈山中のですね、田植え踊は踊りの種類が7種類から10種類あるんですけども、基本はこれ1種類だけです。それからもう一つですね、豊作祈願の仕方、今の田遊び及び田植踊・早乙女踊はね、お正月にやるんですね。田の神様と年神は一緒に来ていますから、その前でやるんです。これ実際田植えしてるんですよ。早乙女が実際苗を植えます。

これで歌われる歌、「田植歌」とも「早乙女歌」ともいわれるんですが、福島県で最も古い中世歌

謡です。だから中世歌謡の本にはですね、必ずこの歌が掲載されています。今の7・7・7・5ではないですね、5・5調にプラスアルファされています。歌と節が残っているという点ではね、福島県では最も古い歌ですね。

「御宝殿熊野神社の稚児田楽と風流」田楽。広い意味の田楽と狭い意味の田楽がありますが、これは田楽法師が磨きに磨きあげた芸能なんです、これがね、1カ所だけ福島県に残っています。右側の手前の赤いの持っているこれ露払いと言っているんですが、そこに描いてある絵はね、3本足のカラスです。左のほうはウサギです。カラスは、海の神様。左が山の神様。手に持っているのが、ここでは「ざら」と言っていますが、「びんざざら」です。手の振り方が素朴です。

④ 五穀豊穡のための御霊送り(除け) 一風流・念仏踊

「栗生沢の三つ獅子」もう一つですね、福島の民俗芸能で代表的なのが、三匹の獅子があります。これはですね、大変ドラマチックでしてね、今右側の男の獅子がですね、よその彼女を奪ってきたところなんです。それでね、隠すんですね。そうするとね、遠くで元の男が怒って、追いかけてくるんですよ。どうもこのやつが怪しいと、右側の男がそわそわしてるんですよ。ばれると困りますから、逃げます。元の男が立木を分けて彼女を探している隙に、頬を摺り寄せたりしてね、極めて仲睦まじい様子をやるんですよ。皆さんお酒を飲みながら見えていますからね、これは、彼女取られたぞとか、母ちゃん取られたとか何取られたとか言ってるんですね。ばれましてね、散々いじめられるんですけど、しかし最後はちゃんと仲直りします

「上羽太の天道念仏踊」、もう一つ念仏踊りがあります。大変珍しい「天道念仏」。おてんとうさまの「天道」です。田植えの後にもう水が入ってますから、太陽が欲しい水が欲しいと言うと踊るんですね。昔はですね、まわしこんで日の出前から日没後まで交代で一日踊っておりました。これ関東から伝来したと、みえます。はしごで囲って、その中に笹を立てて踊るんですね。8種類くらいの踊りが、あるんですね。

今ほんの一部だけを見ていただいたんですが、このようにですね、非常に多彩な芸能がございまして、これほんの一部です。福島大学の鈴木裕美子先生のところにビデオを置いときますからね。もしご覧になりたい方がいたら、ダビングしたって結構ですから、ご利用ください。

(2) 福島の民俗文化と教育

この民俗芸能が、今教育の分野で、子供たちの世界で、どのように受け入れられているかですね、そして子どもたちが活躍しているか。どういう効果があるか、今後どうしたらいいかっていうことをわずかな時間なんですけども、ちょっとね、見ていただきたいと思います。

児童・生徒の継承への参加の現状

「大波の三匹獅子」これは福島市のですね、大波というところですね、これ全部小学生です。小さい子は3年生から5、6年生までですね。3人の獅子と道化役がいます。全部やると40分位かかります。それをですね、子供たちはわずかな時間で覚えてしまうんですね。覚え方の速さにはいちいち驚かされます。この太鼓をたたいているのはですね、ちょっと大人びていますが、かつては中学生で踊られました。

「鈴石の太々神楽」それから、二本松市の「太々神楽」というんですが、出雲流の神楽ですね。その中の鼓、これ小学生が担っているんです。今ではですね、大太鼓も小学生が打ってます。こんな難しい芸をですね、子供に出来るはずないだろうっていう話だったんですね。しかし、ここの会長がですね、やってみないと分からないだろうとやったらですね、大人が1週間ちかくかかるところを子供達は2日で覚えちゃって、愕然としましたね。それから毎年ね、子供達がですね、このように活躍しています。子供っていうのは覚えが速いだけじゃなくて、忘れないんですね。

学校教育での取り組みと公開

「太々神楽一原瀬小学校」それから、これも二本松の例ですけども、小学校でですね、これ8月の末にお祭りがあるんです。地元の諏訪神社で。で、神楽殿でこのような神楽がねぎらわれてますね。それを今度5年生がですね、全校生が来て見ましてね、それで、いくつもありますから、自分がやりたいものを決めるんです。それで授業始まりますとね、農家の方に学校に来ていただいて、習うんですね。そして、秋の学習発表会で発表する。これ面白いのがですね、これ本当は2人なんですね。多くの子供を出したいということでね、同じ組を2組出していますね。ことによっては3組の時もあります。多くの子供たちをステージに乗っけてあげたいということですね。このような形でやっています。この着る着物もですね、買うと高いものですから、ほとんどが保護者の手作りで。非常に協力的ですね。

「天道念仏踊一羽太小学校」これも子供です。これは小学校でね、「念仏踊」教えてます。そして

これ地元でやる場合はもちろん、学校の学習発表会でもこれ発表します。羽太小学校の子供たちです。でねえ、これ、重大なことがあったんですよ。7、8年前になります。震災前です。たまたまね、ここにいきましたらね、子供たちがいないんですね。あれどうしたのって聞いたらね、今年から校長さんが変わったからね、こういう行事は宗教行事だから、参加させることはできませんって断られたっていうんですよ。実は子供会ですね、子供たちの着物をね、一着そのまま寄付したんですよ。その着物を返されてしまいましたね。愕然としましたね。その直後にですね、会津に行ったんですね。会津の念仏踊を子供たちのグループでやっていたんですよ。それもやらなくなっちゃったんですね。聞いたら同じことなんですよ。

災害のその半年後、年度末に二本松市でですね、県内の小中学校の教頭さんが、それか校長さんが、全部集まる会議があったんですよ。その時に、はっきり言ったんです。この民俗芸能はね、決して宗教ではありません。信仰なんです。信仰と宗教では歴然とした違いがある。信仰だからね、こういう芸能ですよ。文化庁がお金出してるでしょ。今回震災がありましてね、4年間で文化庁が出した総額は6000万超えました。結局それは、宗教行為ならできません。憲法に反してますから。信仰だからできるんですよ。住職のお坊さんとか神職から頼まれてやっているわけじゃなくて、自主的に演じてるわけですよ。例年、しかも先祖代々ね。これは宗教行為じゃありません。信仰なんですよ。だから憲法には反していないんです。壇の上からちょっと生意気だったんですけどもね、校長先生ともあろうものがね、宗教と信仰の区別つかないようじゃ困る。そういう校長は本日限りでやめて下さいとはっきり言ったんですよ。後で聞いたらね、ちゃんと昔に戻ったそうです。こういう啓蒙もね、私はしなきゃなんないですね。それは大きな問題ですね。

「民謡一尾岐小学校」今これ小学校なくなっちゃったんです、統廃合で尾岐（おまた）小学校。この子供たちがまた上手なんですよ。笛と三味線は大人の方ですけども、太鼓と歌は全部小学生です。これは、民謡の「会津磐梯山」ですね。会津美里町のね、ちょっと奥ぐらいにね、尾岐地区っていうのがありますね。「尾岐甚句」という踊りがあったんですね。これがもうほとんど担い手がいらないんですね。廃絶しかかったんですね。それを師匠が発掘しましてね、子供たちに教えたんです。子供達はこの民謡を復活させたということですよ。

ここにですね、小学生たちをね、何団体か前に出したんです。あの小学校はですね、校長さんが見に来てくれたんです。しかしね、子供たちがい

る楽屋にも入ってこないで、ホールの一番後ろに
です、わが学校の子供がやる直前に入ってきて、
終わったらずい早く帰ってしまいました。普通なら
ね、しっかり頑張ってくれよぐらいは言うのが当
たり前でしょ？ なんて奴だと思ったんですけど
ね。なぜかっていうと、今ね、学校です、授
業以外に子供たちを引率して歩いて、事故が起
きた場合には、引率者の責任になるんです。県が
責任を負うのは修学旅行ぐらいです。あとは引
率者が悪いと。川俣高校ってあるんですが、だ
い昔ですよ、裏磐梯のですね、転覆事故があ
りました。3年間、PTAの費用、保障でなくな
っちゃった。だから校長さんはずい、もちろん
自分でも輸送しない、先生方にも輸送しろと
は言えないですね。子供たちを学校で引率す
るということは極めて難しい。中にはね、来
てくれる方もいるんですよ。私が輸送する
から行こうって言って。でもそういう現実が
あるっていうことをね、承知してください。

民俗芸能と社会教育

「田島の子ども歌舞伎」中にはですね、こ
ういうこともやっています。子供達の歌舞伎
です。これ国指定のね、小屋でやっています
が、左から2番目の子供、今おっきになり
ましたけどもね、こんとき保育所です。も
ちろん台本読めません。だからお母さんが
読んでくれて覚えたんです。出し物は、農
民一揆の芝居ですね。一揆に行くためにで
すね、母親にわざわざ勘当させられるとい
う。あの、一揆に行くということはずい、
親も同罪になるんです。それで親に勘当
させられるんです。そういう設定です。女
房がですね、嘆いてますけど、行く途中に
わが子に会うんですね。それで、今度、自
分の子供にですね、これからね、おばあ
ちゃんにお母さんにも教えなさいって
言って去っていくんです。そういうね、大
人の難しい話をストーリーにした芝居
です。

練習の時は何回か見てるんですが、非
常に厳しいしつけをしますね。おじぎの
仕方。座ってね、お願いしますとい
うことを師匠さんに言ってるんです
ね。終わると有り難うございました。社
会教育、家庭教育的なことが実によく
できていますね。その象徴的な例がね、
総務会長です。ちゃんと靴揃えて脱ぐ
んだよって言ってましたね。この子
ども達はいつもきちっと靴脱いでます
、揃えています。これ練習ですよ。これ
自分の親じゃありませんよ。手を取
って足を取って教えてますね。この
ね、コミュニケーションっていうのは、
絆の深さ。子どもは絶対に悪いこと
しませんよ。みんなわかってるから。
どこの孫だ、どこの息子だってこと。
両親たちもみんな来るんですよ。お
父さんもお母さんも。そして、集落
総出でやっています。お母さん

たちもちゃんと見守っていますね。だ
から、うちに帰るとね、話題が豊富
なんです。さっきの練習があつた、こ
うだった。親との会話をしなさいな
んて言ったってできないでしょ？ こ
ういうところで、親子関係を通すん
です。そんなところからですね。それ
と、面白いのはですね、終わってか
らです。神棚にですね、ありがとうご
ざいましたって子ども達言ってます
ね。そのあとは、慰労会があります。「
直会」(なおりえ)ですね。乾杯す
けどね。もちろん子供だから杯はだ
めですよ。でも子供達は、杯もちた
いですよ。何で乾杯してるんだって
いうんです。ポカリスウェットのふ
たをもって乾杯してます。まねした
いんです。子ども達の席は、一番上
座です。子ども達に華を持たせてい
ます。でこれね、わらべ歌です。昭
和のわらべ歌なんですけれども。手
をこうやって叩くんですよ。そう
いう遊びなんです。これ前の子供は
他人ですよ。自分のうちのおばあ
ちゃんじゃありませんよ。全く見
ず知らずのおばあちゃんです。ず
いぶんこれ盛り上がりましてね、も
っとやるもっとやるって。

わらべ歌と音感教育

次は民俗芸能ではなく民俗文化、女
の子の屋外での遊びです。たまたま
ね、福島県の白河で撮ったんです
よ。山形から、家族でね何家族か
来たんですね。最初ためらったん
ですがね、入れ入れって無理して
入れたんですよ。だんだん、一緒
になってやるようになりましてね、
今流れている映像はこれ「花いち
もんめ」っていう遊びですね。こ
れも積極的に参加するようになりました
。これ子どもはみんな山形の子
です。着物着てるのは大人の福
島県のボランティアです。喜んで
やりましたね。これ見てたらです
ね、山形の大人がですね、自分も
やりたくなつたんですよ。大人も
やりはじめるんですね。みんなこ
れ後期高齢者です、ほとんどが。
反撃に出ますよ、「子とろ遊び」と
いうんですけどね。この方は県の
課長でございます。定年の直前、
六年前でした。

こういうのをですね、なんでこれ
を紹介するかっていうと、私たち
日本人のですね、旋法っていうの
があるんですね。例えば、西洋で
言えば「ドレミファソラシド」で
しょ。日本語はですね、「レミソ
ラド」でしゃべってるんです。だ
から花子さん遊びましょっていう
のは「ラソララソラ」でしょ。「
ラソミソラソラ」になるんです
ね。「ミ」が変わる。それでも出
てこない「ラソミソラソラド
ラソラ」になる。だから「ミソ
ラド」。出来ちゃうんですよ。今
の子どもですよ、幼稚園であろ
うと大人であろうと、全部この
「レミソラド」でしゃべって
ます。だから極論するとね、日
本語も「レミソラド」でしゃべ
ってるのに、学校に来ると「ド
レミファソ

ラシド」を教えられるというのはね、ある意味では極めて乱暴ことですね。

伊沢修二ですね、明治にアメリカ行ったでしょ。あの人が全然「ドレミファソラシド」歌えなかったんですね。音階が全然違います。だいぶ苦労したってことを書いていますね。今もそうなんです。だからね、小さい子どもほどね、教育には「わらべ歌」がとてもいいと思うんですね。でね、専門家に聞きました。子どもってというのは何も知らないんだから、「ドレミファソラシド」でいいんじゃないのって、逆なんです。音楽教育を受けてない子どもほどね、日本の伝統的な「レミソラド」という音感を身に付けてるんだそうです。

前にね、ある特定の会社ですけれども、音楽教室のコマーシャルでね、「シファソー」って歌った子供の映像を流していました。「シファソ」の「シ」と「ファ」ってのは、日本の音階にないんですよ。それができたからね、すばらしいなんて誉めたことじゃないですね。教える方も教える方、そういう最も基本的なことが分かってらっしゃらない。それはととても恥ずかしいことですね。だからとにかく。そしてある程度大きくなったらですね、「ドレミファソラシド」もあるんだよと教えればよいのです。

もう一つですね、リズムです。日本のわらべ歌には3拍子っていうのがありません。ありませんって断言しますけどもね、稀にあるんです。「縄跳び歌」で、これアメリカから入ってきた曲です。日本のは全部2拍子です。3拍子はあります。だから、小さい子供に3拍子の歌を教えるのはかわいそうですね。「ぞうさん」って歌がありますね。「ぞうさんぞうさん」って。「ぞうさん」って3拍子でしょ。あれ、幼稚園の子どもに歌わせていませんか？あれ、絶対3拍子では歌えません。どう歌うか。「ぞうさんぞうさんおーはながながいのね」(歌う)1拍子で歌います。3拍子で歌えないんですね。2拍子はちゃんと歌えます。團伊玖磨さんもわかっているはずなのに、なんで3拍子で作ったのか、不思議なんですけどもね。

それからね、もう一つ、子ども苦手なのは「スキップ」のリズムです。「タンタタン、タタタタ」ってあるでしょ。皆さんはお分かりかと思いますが、「夕空晴れて秋風」あれも「スキップビート」の繰り返しですよ。あれ、もともと原曲は違いますよね。スコットランドの民謡でね。「ミファファミミドファミソファレ」っていう。「タンタタン、タンタタタン、タタータータタン」っていう感じですよ。タタタタタタ」っていうスキップでさえ歌えないのに、「タターン」なんて言う、逆なんていうのはまず歌えません。ましては小さい子どもで。だからあの歌は全部、「パ

ンパパンパパンパ」っていう面白くないですね。歌の区切りがつくんですね。だからそういうことをね。だから、スキップのリズム、3対1ですよ。符点8分音符に、16分音符で「タンタタン」って行くでしょ。日本中の歌はどうなっているかというとならば2対1になっています。3連符で前の2つをタイでつないだような2対1の長さになっています。だから小さい子どもがスキップを歌ったとき、「あんたリズム感悪いわね、こっちももっと短いよ」これ絶対やめてください。2対1にうたったとき「あなたすごい日本人ね。ちゃんと日本の伝統受け継いでいるよ。立派だよ。」と褒めてやってください。私も大学の時ずいぶん叱られました。この福島大学の出なもんですから。「お前はリズム感が悪い。」なんてずいぶん叱られたもんです。その腹いせではないですよ。だけどそういう音感を持って、小さいときにそれを育てないから、音楽嫌いになっちゃうんですよ。私も昔は音楽教員でした。だから私たちは今反省しています。給料もらって音楽嫌いな子どもを育てていたのではないかと。だって音楽嫌いな子どもいないでしょ、ひとりだって。だんだん中学高校になっていくと、音楽は好きなんですよ。学校の音楽が嫌いになっていくんです。これ基本的に考えなければならぬですね。そうでしょ。私の学校で、小学校1年生の授業見に行きました。音楽の授業なんですけど数学だと思っています。4分音符+4分音符は何の音符になるでしょうか。8分音符と4分音符足したらどうなるでしょうか。40分の授業の中で15分それやったんですよ。それが音楽教育だって勘違いしてるんですよ。もう、小学校の一年生なんていいんですよ、音符なんてどうだって、楽しく歌えれば。必要になったら教えればいいんですから。そういうね、大人の勝手な解釈であつという間に音楽嫌いになっていくんですね。自分の反省ですこれは。だから日本人はどういう音感を持っていたのかということですね、しっかりと受けとっていただきたいと思えますね。

ちょっと話が余談になりましたけど。あの、鮫島百合子さんという方いますね。あの方、フランスの歌うたうとき手をこうやりますよ。そのかわり、日本の歌の時は絶対にこうです。手を動かしません。日本は全部内側に内側に行きますからね。外に行かないんです。ところが、日本人は内にこもる。外国人は遠心力で遠くに行く。そういうことをきちっとわきまえてやらないと、とんでもないことを育てることになるんです。それである程度成長してから、こういうのもあるんですよ。なるんですよ。そういうことで、ぜひですね、皆さんのお力を借りたいと思います。ご清聴ありがとうございました。